

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390500043		
法人名	株式会社アメニティーサービス社		
事業所名	グループホーム あいあい		
所在地	岡山県笠岡市白石島455番地		
自己評価作成日	平成27年1月12日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・食べる楽しみを常に意識して地元の食材もふんだんに取り入れながら献立して作りをし、個々の好みにも十分配慮して提供している。 ・家族、本人の希望があれば看取りも行い、職員の協力体制を強化し、医師や看護師と連携を取りながら行っている。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3390500043-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	兵士枝27年1月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成20年10月にホームを開業して丸6年、このたび指定の更新をして今年10月、7年目に入った。2年前に体調を崩して1カ月程入院生活を送った管理者は、この機をプラスの視点で捉え、物事を客観的に見る良い機会だったと語る。管理者不在の間、職員の結束が固まり「大丈夫よ、私達が頑張るから」と頼もしい言葉が返ってきて、職員の意欲向上にも繋がり、職員間の協力体制が出来たという嬉しい相乗効果もあった。利用者は島内外から9名。そのうち夫婦2組・姉妹1組と馴染みの関係の深い家庭的なホームである。元旅館だった頃を彷彿とさせるようなホームの理念「愛にあふれた、おもてなしの心を大切に、ゆっくりのんびり過ごしていただく」がまさに現実の利用者の日々の生活、職員のケアから実践されているのがよく分かる。笠岡諸島の中ではただ一つのグループホーム。高齢となり認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続ける為の拠点として受け皿的な役割を担っているホームは地域への貢献度も大きい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、実践につなげられるように常に思いに刻めるため、数ヶ所に掲示している。	理念「愛にあふれた、おもてなしの心を大切にし、ゆっくりのんびり過ごしていただく」と運営方針を玄関・事務所に掲げ、日々職員間で意識の共有をしている。日々のケアにおいても、もう少しゆとりを持ち、意識の向上に努めるように職員に注意喚起をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所は空室が多いが職員の大半が島の住民なので、日常的に交流できている。	地域の伝統的な行事の盆踊り、秋祭り等に参加したり、中学生の夏ボラや高校生の体験学習等の訪問もある。小・中合同運動会の見学や地域の敬老会に参加しており、日頃から地域との結びつきも深く、住民との交流が図れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する情報を機会があれば提供し、理解を深めてもらうようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回の目標はなかなか達成できないが、定期的開催するよう努めている。取り組みや状況の変化を理解して頂いている。	民生委員、公民館長、行政、小・中学校長等の他、利用者も参加して開催している。行事と組み合わせながら活動報告や意見交換・情報交換をしている。時には地域住民の介護相談を受けることもある。	年間行事計画にも会議の年6回開催を予定として挙げているが、市の担当者からも、いろんなパターンの会議を試みてはどうかと提案があるように、職員間で話し合いながら創意工夫をして実現に向けて取り組んで欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも出席して頂き、状況を伝え、協力関係を築くよう努めている。	地域包括からの紹介で在宅生活困難な人を受け入れたり、生保の人も数名受け入れる等、行政と連携を取りながら地域の受け皿的役割を担っている。また、市や地域包括主催の研修には職員が欠かさず参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアの中で身体拘束が何かを理解できるよう話し合いをしている。新しい職員にも理解の徹底を図っている。	玄関の施錠はしていないが、ホームの前は道路と海岸に面しており安全の為にチャイムを取り付けている。外に出たい人には職員が見守りながら付き添い、会話をしながら気分転換を図っている。また「虐待防止・身体拘束」の研修をして職員間で意識統一をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	役立つ資料を準備し、内部の研修として扱っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに話題として取り上げ、率直な意見を聞くように努めている。	島内の施設という立地条件もあり、家族の面会は盆・正月に集中するが、面会時に利用者の状態を見た家族から「居室に手すりをつけて欲しい」という要望を受け、設置した例もある。タブレットのラインで利用者の写真や動画を送り状況報告している家族もいる。	遠方にある家族への状況報告の手段として、面会時や電話だけでなく、様々な連絡方法を駆使して実施している。動画配信はとても目新しく感じた。このような家族が増えることを期待している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題が浮上した場合は速やかに対応するため、ミーティングをして解決を図っている。	申し送りや気づき、その他、何でも記入する「なんでも帳」を活用し、日々の申し送り時に意見交換や情報の共有をしている。月々のミーティングでは職員間で協議内容を話し合い、職員の意見や要望は管理者が察知して把握し、代表して施設長に提案している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の持つ向上心は反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	専門分野の研修へ参加できるよう計画して、スキルアップできるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や地域包括支援センター主催の研修や勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員で情報を共有し、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方々の協力を要請し相談しながら支援することによって築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。	利用者の中には夫婦で入所の人2組や姉妹という人達もいて、以前からの関係性が継続されている。また入所してから親しい馴染みの関係になっている人もいる。昔からの馴染みの美容院に行っている人、地域の役員としてお寺の会議に参加している人等、職員は個々の関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングルームに冬はコタツを置いて集える場を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必要に応じてカンファレンスを行い、職員全員が周知できるよう配慮し、本人本位に検討している。	自分で意見や要望を言える人が多いので、可能な範囲で本人の思いや希望を叶えられるように職員間で話し合っている。少しでも笑顔で過ごせる時間が長く続くように、職員は一人ひとりの思いを把握しながら利用者の意向に添った支援を心がけている。	利用者にとって一番の満足はよく喋った時、その点このホームの利用者は皆よく喋り満足度も高い。利用者と職員の間には垣根もなく家族的な雰囲気が漂うが、今後、今以上に利用者の満足度を高める工夫を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	十分にアセスメントをして状態を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。 記録を現状に即したものに变化させて用いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	行なっている。	状態の変化やプラン更新時にアセスメントをし、職員間で協議しながら3か月毎にモニタリングをしている。日々の職員の気付きや支援経過記録を基に話し合い、本人・家族の意向や要望に添ったプランを計画作成担当者が作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録をより簡潔なものにして読み取れるように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広域ではないが協力を求めて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	島の診療所のドクターが2週間に一度来て下さり、健康管理に努めている。	島内の白石診療所がかかりつけ医であり、週2回の往診や緊急時や夜間にも迅速に対応してくれ、医療との協力関係が築けている。定期的な訪問看護による健康管理もしており、歯科受診等の通院介助は職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	笠岡から訪問看護として週一回、看護師が来てくれている。 必要に応じて電話で指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で説明し取り組んでいる。	昨秋、医師から余命宣告されてから2ヶ月近く、職員がぎりぎりまで経口摂取のケアをしながら最期を看取った利用者がいる。「本人が元氣になりたいという要望があるから」との医師の指示で点滴等しながら最善を尽くした。エンゼルケアをし、職員全員で見送った。ホームでの看取りは7人目であった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築いている。	島内の消防団の協力も得て避難・消化訓練を実施している。避難時に移動が円滑に出来るように、利用者の履物を日頃から傍に置き、一人ひとりの援助方法を職員間で話し合っている。1週間分の食料品等の備蓄がある。家具の固定等の地震対策も施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努めている。	基本的な生活プランはあるが、ゆっくりのんびり過ごしてもらえるように個人の意思を尊重し、自由に行動してもらっている。また、排泄時・入浴時等の羞恥心やプライバシーに配慮し、職員は言葉かけに気をつけるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行なっている。 美容院への付き添いなど。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の残存能力に応じた範囲で行っている。	利用者に出来る事は手伝ってもらいながら、調理担当の職員が3食、手作りしている。自分の部屋でゆっくり食べたい人、職員も交えて数人で楽しく会話しながら食べる人等、食事場所も選べるが、ほとんどの人が自分の箸で食べていた。イベントの時は全員揃って食事をするそうだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	努めている。	排泄が自立の人もあるが、大半の人はリハビリパンツやパットを使用している。トイレで座位での排泄を基本としており、各居室にポータブルを置いている人も多い。排便コントロールが必要な人には個々に合った薬を検討しながら使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	予定は一応立てているが、その時々状況に応じて行っている。	一般浴槽に入れない人の為に新しく特殊浴槽を設置し、ゆっくり湯船に浸かり喜んでもらっている。週2回入浴が基本であるが、自分で曜日を決めている人もいる。着脱拒否で入浴困難な人には、声かけの工夫やコミュニケーションを上手に取りながら、職員が二人対応で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	支援している。	天気の良い日は散歩に出かけたり、玄関先で日向ぼっこをするのが日課になっている。希望者とドライブに出かける事もあり、花見や若葉狩りを楽しんでいる。盆踊り、秋祭り等の地域の行事の見学は恒例であり、職員は個々の希望に合わせてながら外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気清浄器の設置。季節の花を置く等工夫している。	2階の純和風の大広間では炬燵で横になったり、利用者同士、おしゃべりをしてゆったり寛いでいる。床の間の置き物にはどこか懐かしい香りが漂い、落ち着ける雰囲気を出している。1階のリビングルームはイベントや全員揃っての食事会の会場となり、木の温もりのある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	行なっている。	1階と2階に居室があり、和室にベッドを置いている人、毎日布団を敷く人、炬燵を置いている人等、自分の生活スタイルに合った寛げる居室になっている。全室、海に面した窓からは眺めも良く、観葉植物を置いたり、自分で生け花を活けている人もいる。馴染みの家具を持ち込み居心地の良い環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。		